

健康・スポーツ科学概論 (スポーツコーチングの基礎) 第12回

荒井弘和

法政大学文学部 教授

5-3 障害のある人のコーチング

(1) 障害について

- a. 障害をひとくくりに捉えない
- b. 障害のある人はできないことがあるができない人ではない

(2) アダプテッドについて

- a. アダプテッドとは
- b. その人を知る
- c. その人を知るための方法
- d. その人に合わせて工夫をするアダプテッドの方法
- e. アダプテッドの落とし穴

パラリンピック

障害のあるトップアスリートが出場できる
世界最高峰の国際競技大会 (日本パラリンピック委員会, 2016)

- オリとパラ融合のメリット：

スポーツの本質を再認識させることができる

- オリとパラ融合のデメリット：

用具に関するルールがある（レギュレーション）

クラス分けが細かい

- 障害のある人を指導する**グッドコーチ**の特性
 - ① 障害を**ネガティブな面**に偏って捉えていない
 - ② **アダプテッド**に関する知識や技術を持っていた
 - ③ **インクルーシブ**のあり方を模索していた



(1) 障害について

a. 障害をひとくくりに捉えない



- 「障害とは何か？」 **障害の定義**は難しい
- Disability, Disorder, Disturbance, Impairment, Handicap...
- **障害者基本法**における「障害者」の定義：
身体障害、知的障害、精神障害 (発達障害を含む) その他
の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社
会的障壁 (事物、制度、慣行、観念等) により継続的に
日常生活又は社会生活に**相当な制限を受ける**状態にあ
る者をいう

日本の障がい者人口は？ (令和元年版 障害者白書の引用データより)

障がい者手帳

日本の障がい者人口
963.5万人

障害者手帳が発行
されている人数

身体障害者 436万人
(視覚、聴覚、内部、肢体)

精神障害者 419.3万人

知的障害者 108.2万人

障害、障碍、障がい、しょうがい
障害者、障害のある人、障害を持つ人

(1) 障害について

a. 障害をひとくくりに捉えない (ICFモデル)

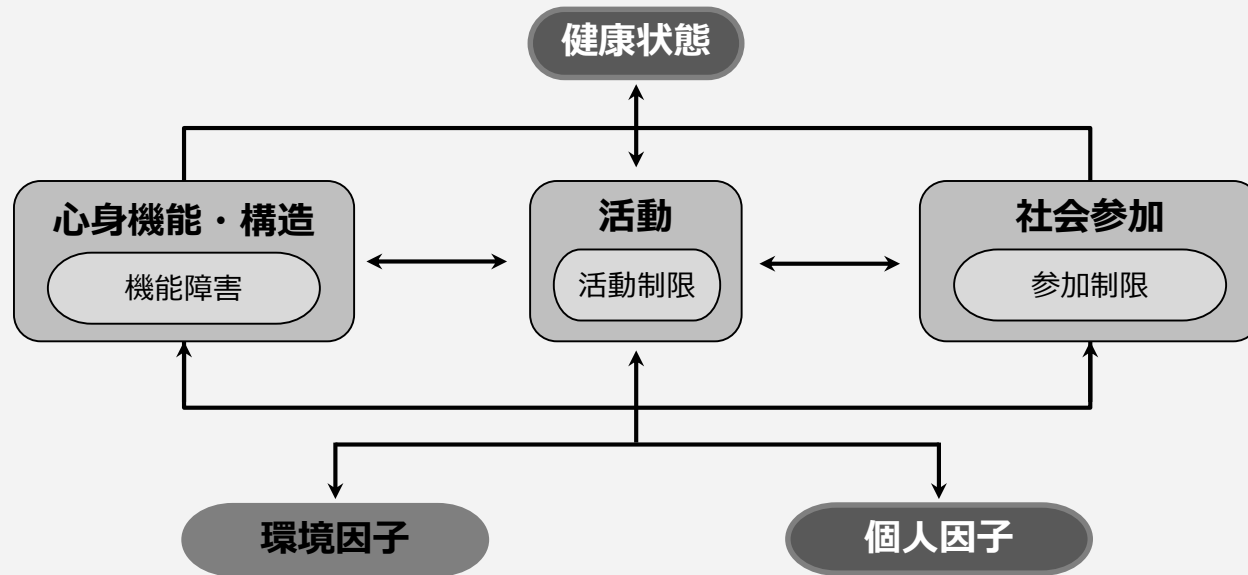


図5-6 WHOのICFモデル

個人の生活機能の状態から説明した障害定義

(1) 障害について

b. 障害のある人はできないことがあるができない人ではない

- 障害のある人≠できない人
- できないことがある人= **できることがある人**

右下肢大腿切断→アンプティーサッカー

(日本アンプティサッカー協会HPより)

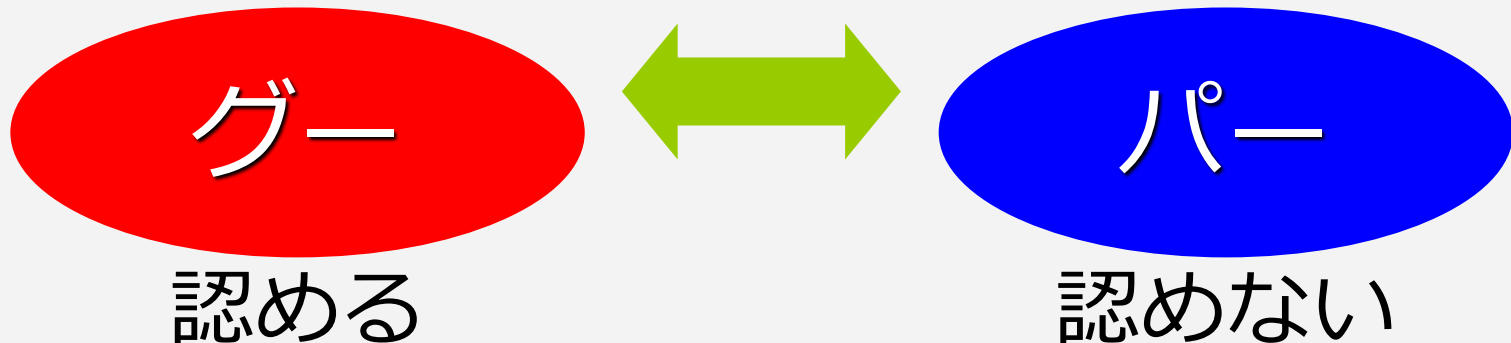
弱視→ブラインドサッカー



- グットマン博士 (パラリンピックの父)
「残っているもの (残存機能) を生かせ」
- できる可能性に注意を向けよう

パラリンピアンへのオリ出場

- あなたはある競技の国際団体の会長です。
- パラで、オリの記録を超えることがあります。
- 「パラだけでなく、オリにも出場したい！」
- あなたは、**パラリンピアンへのオリ出場**を認めますか？



(2) アダプテッドについて

a. アダプテッドとは

- 障害者スポーツ =
「アダプテッドスポーツ」「パラスポーツ」
- 「アダプテッド」の意味とは？
ルールや用具、身体活動の方法を
個人の状況に応じて作り変えていく
「調節」「変更」「修正」
- 「足が不自由ですが、サッカーをしたいんです」
→ 「どうしたら、この人はサッカーができるか？」
→ 電動車椅子サッカー、ハンドサッカー



(日本電動車椅子サッカー協会HPより)



(2) アダプテッドについて

b. その人を知る

c. その人を知るための方法

- まず、目の前にいる「その人を知る」
- 年齢、体格、運動能力、興味、社会性、短所、長所...
- 客観的情報レベル：
聞き取り、アンケート
- 相互作用による情報レベル：
コミュニケーションを取りながら



(2) アダプテッドについて

d. その人に合わせて工夫をするアダプテッドの方法

- **用具**のレベル：

道具・義肢・車いすに、加工・調整・追加をする

- **集団・仲間**のレベル：

支援者・仲間を加える、チーム編成を調整する

- **フィールド**のレベル：

場所・建物を加工・調整する

- **システム**のレベル：

上記レベルを越え、ルールを追加・変更・修正する



スペシャルオリンピックスの紹介

- **スペシャルオリンピックス** (Special Olympics: SO)
知的障害のある人たちにスポーツのトレーニングと競技会を提供する国際的な組織
 - 1) アスリート (知的障害のある人)
 - 2) ファミリー (アスリートの家族)
 - 3) ボランティア (コーチも含む)
 - 4) パートナー (ユニファイドスポーツを一緒に行う人)
- SOでは、全員が参加者です
- SOでは、アスリートファーストです

スペシャルオリンピックスの現場にて



競技会の風景



アスリート同士のゲーム



開会宣言や選手宣誓も



アスリート・ファミリー・ボランティア



S0プログラムを開催しようとしたら…

プログラムを開きたい

けど、人手が足りない…

協力してくれる人が必要

ファミリーも呼ぼう

地域の人も呼んじゃおう

どうせ来てもらうなら

みんな一緒に

スポーツしては？

アスリートを入口とした
地域への包括的な健康支援！



(2) アダプテッドについて

e. アダプテッドの落とし穴 (エコロジカルモデル)

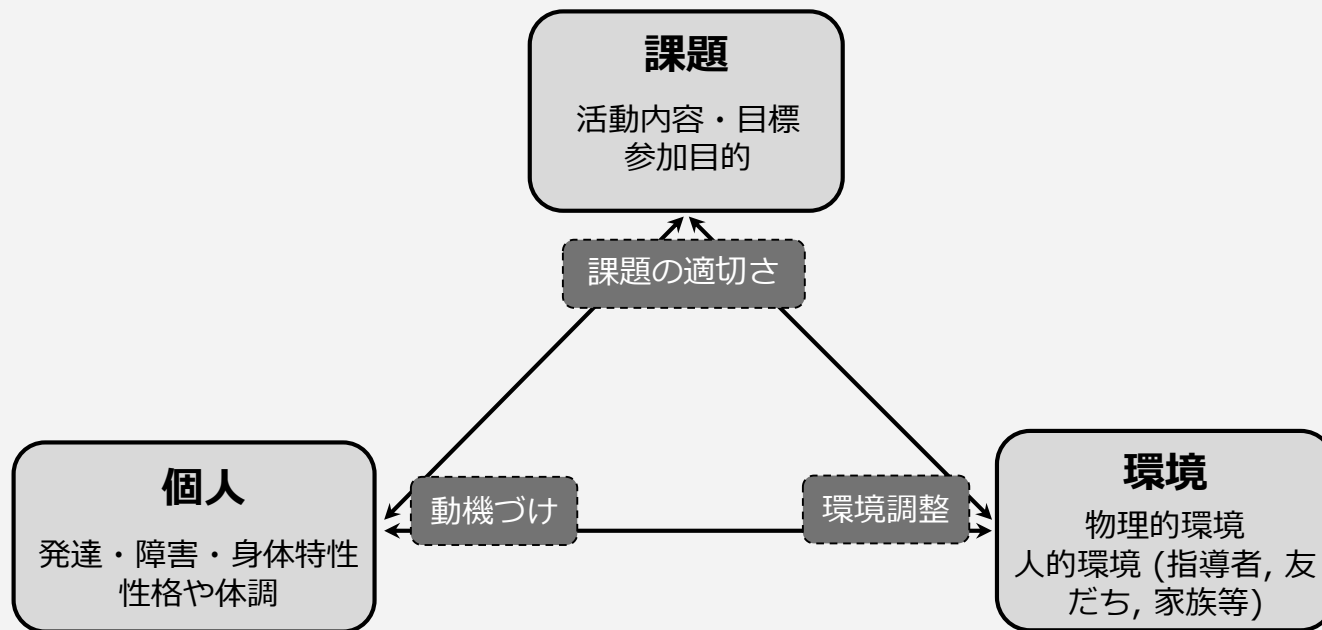


図5-8 Davis and Broadhead (2007) をもとに示したエコロジカルモデルにおけるアダプテッド (点線にくくられたものがアダプテッドの目的)

5-3 障害のある人のコーチング

(3) インクルーシブ・スポーツについて

- a. ノーマライゼーションとそのための実践理論について
- b. インクルーシブ・スポーツの2つのエッセンス
- c. インクルーシブ・スポーツの現状
- d. インクルーシブ・スポーツの問題
- e. インクルーシブ・スポーツにおける今後の課題

(4) さいごに

(3) インクルーシブ・スポーツについて

a. ノーマライゼーションとそのための実践理論について

- インクルージョン =
ノーマライゼーションの実践的理論
- 2006年 障害者権利条約が国連で採択
→ 障害があっても差別されることなく人権を行使可能
2014年 わが国も批准
- 人権としてのスポーツ権：スポーツ参加場面で...
障がいのある人を除くことを避けねばならない
- インテグレーション = 健常者の集団に障害者を統合
配慮のない統合 = ダンピング



(3) インクルーシブ・スポーツについて

a. ノーマライゼーションとそのための実践理論について

- インクルージョンは、障害のある・なしではなく...
一人ひとりに違いがあることを前提に、
全ての人を包含して実践する理論
- 自分の力でできることもあるし (自助)
家族や地域の人を借りることもある (共助)
医療保険制度など公的制度を必要とすることも (公助)
- つまり、その置かれた状況によって...
必要とする人が必要とされる支援を受けられる



(3) インクルーシブ・スポーツについて

b. インクルーシブ・スポーツの2つのエッセンス

- インクルーシブ・スポーツの2つのエッセンス

- 1つは、健常者と同様に、障害のある人も、



スポーツや運動する機会を保証されねばならない

- もう1つは、障害があるからという理由ではなく、

指導上の困難さに応じて支援しなければならない

(3) インクルーシブ・スポーツについて

c. インクルーシブ・スポーツの現状

- 体育こそ、最もインクルーシブ・スポーツが必要
- 体育はインクルージョンしやすい

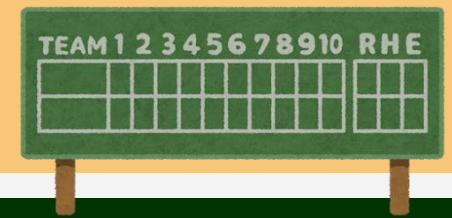


障害の有無に関わらず子どもの接触機会が多いから

活動内容やルールを工夫することで、学習できる

(3) インクルーシブ・スポーツについて

d. インクルーシブ・スポーツの問題



- 通常学級での体育における障害のある子ども
「**見学**が当たり前」 「**迷惑**を掛けたくない」
スポーツの楽しさを経験できていない？
- 特別支援学校での体育における障害のある子ども
「汗をかくと**気持ちいい**」 「キツいけど**楽しい**」
- **教員**がアダプテッドを実践できないという問題
課題設定、評価に困難さを感じている
- アダプテッドと異なるインクルーシブを突き詰める

(3) インクルーシブ・スポーツについて

e. インクルーシブ・スポーツにおける今後の課題



- いつも一緒に行う必要はない

グループ編成、道具、課題にバリエーションを

- インクルーシブ・スポーツを支えるチームづくり

専門職に丸投げせず、主たる指導者も研鑽する

- さまざまなスポーツの価値観の指導と共有

違いを生かして協力、互いを思いやるのを当たり前に

インクルージョン・スペクトラム・モデル

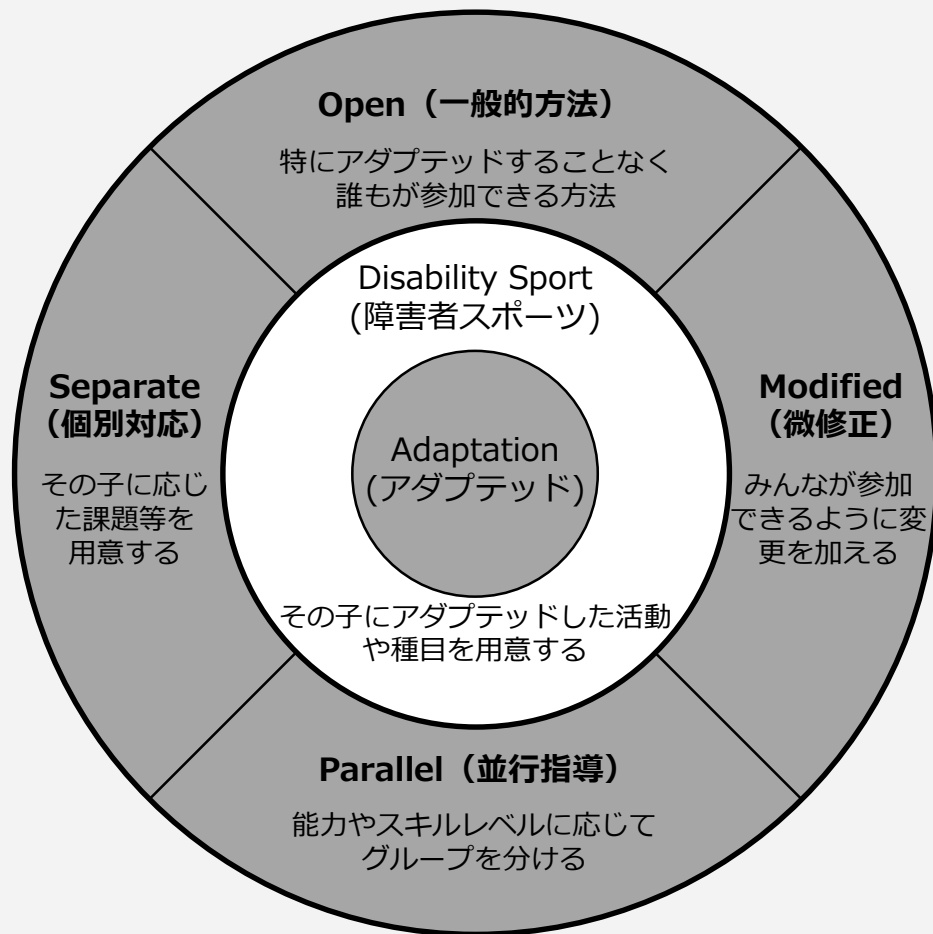


図5-9 インクルージョン・スペクトラム・モデル

注：原著ではSTEPというアダプテーションの具体的方法を示しているため、詳細はThe University of Worcester (2017) を参照してほしい。

- 障がい者スポーツを、**健全者も一緒に行い、**

障がいの有無に関係なく楽しむという考え方

- 「インクルーシブ」ではない

- 車椅子バスケットボール、シッティングバレーボール、

卓球バレー等がすでに行われている



「障がい者スポーツセンター」は必要か？

- スポーツセンターは、全ての人を対象としているはず
- 「何で障がい者だけのスポーツセンターがあるの？」
…と、海外の人から聞かれることがあります
- 障がい者スポーツセンターをどう考えますか？



グー

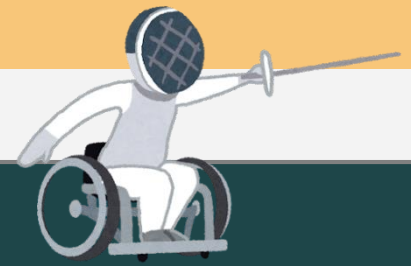
あった方がよい



パー

ない方がよい

アダプテッドスポーツの位置づけ



障がい者の
スポーツ

健常者の
スポーツ

アダプテッド
スポーツ

子どもの
スポーツ

女性の
スポーツ

高校生の
スポーツ

高齢者の
スポーツ

リハビリ
のための
スポーツ

レクリエー
ション
スポーツ

男性の
スポーツ